

## 行政視察等報告

(会派 燦友会)

### <視察目的>

- ・茨城県取手市  
議員と事務局が一体となって議会改革に取り組んでおられる取手市議会を訪ね、様々な取り組みを調査・研究し、参考にするため。
- ・国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構【以下農研機構】(茨城県つくば市)  
農業における最新技術や品種改良など食と農の未来創出に向けて、先進的な総合研究(特に ICT 分野での研究等)をしておられる農研機構について調査・研究し、参考にするため。
- ・栃木県栃木市  
空き家対策事業として、空き家バンクの運営やお試し移住プログラム、住宅取得の補助金給付などを実施され、実績を上げておられる栃木市の取り組みなどについて調査・研究し、参考にするため。

### <視察概要一覧>

視察月日	視察・研修先	視察施設	視察内容
平成 30 年 7 月 18 日 (水)	茨城県取手市	取手市役所	・議会改革について
平成 30 年 7 月 19 日 (木)	農研機構(茨城県 つくば市)	食と農の科学館、 農業技術革新工学研 究センター	・農研機構概要説明および食と農の科学館見学 ・「ICT 分野での研究等の講義」と実機の紹介
平成 30 年 7 月 20 日 (金)	栃木県栃木市	栃木市役所	・空き家対策について

### <視察概要報告>

#### 1. 茨城県取手市

- 対応者： 館山市議会事務局 局長補佐 岩崎 弘宜様  
" " 係長 土谷 靖孝様
- 場 所： 取手市役所
- 概 要：「議会改革について」

議員と事務局が一体となって議会改革を行っている議会は全国でもあまり例がなく、また以前から議会のメールマガジン発信や政務活動費の領収書の原本添付など様々な改革に取り組んでおられる取手市議会を訪問しました。今回は特に「女性議員

による議会改革特別委員会の設置」と「議会報告会の運営状況」、「決算特別委員会の審査方法」を中心に説明を受け、意見交換をしました。

まずは「女性議員による議会改革特別委員会の設置」に及んだ経緯の説明を受け、設置後約半年間で18回の委員会を開催され、条例の改正や議会規則の改正などに取組み、実績をだされたことなどについて説明を受けました。

次に「議会報告会の運営状況」について説明を受けました。取手市議会では平成22年より1年間の試行期間として市内4会場で同時に4回議会報告会を開催されましたが、参加者の固定化や少数のため終了を決定されました。その後、「議会報告会再開に関する陳情」が出され、議会が採択したことから再開され、現在まで計17回実施されています。再開後は年2回2会場同時開催をしておりましたが、最近では年2回1会場以上で実施しておられます。以前は予算と決算を中心にした報告会でしたが、今は「議会報告会」から「意見交換会」に目的を変え、最初から「対話する形式」に変えて実施しておられます。

最後に「決算特別委員会の審査方法」について説明を受けました。取手市議会では、地方自治法等の一部改正（平成32年施行）や新公会計制度導入による議会の新たな財政チェックが必要になってきたことや、決算審査結果を次年度予算編成に反映していくことを目的とし、決算と予算の審査の進め方について昨年の9月議会から今年3月議会まで試行的に

「決算・予算審査特別委員会」を設置し、検討を進めておられます。なかでも会派から出された「課題情報共有シート」などを使つての課題事業の抽出・共有は、新しい取り組みとして興味深いものがありました。



#### 〈考察〉

- 取手市議会では、  
「女性議員による議会改革特別委員会」において女性の視点から女性が働きやすい議会改革を議論され、仕事と子育てを両立するための環境を整えることは、女性が充実した生活を送るために社会全体として取り組むべき大きな課題でもあります。我が国では、そうした女性の政治参画が遅れていることは事実でもあり、またこの件に関して、国・県・市町村を問わず、男女議員間で十分に議論されてこなかったことは、反省すべきです。しかしながら、平成30年5月7日に開催された茨城県内18市町の「女性議員による意見交換会（45人出席）」のアンケート結果を見ると、違和感を覚え、女性議員がいつでも議会活動をできる環境整備が、我が国では立ち遅れていると考えました。（金山）
- 取手市議会の特徴は、議員と事務局が一体となって改革を行っているということで、全国でも珍しい事例であります。

その中で、今回の視察で一番評価したことに、女性だけの特別委員会を立ち上げ、年 18 回の委員会を開催し条例改正、規則の改正を提案していること等々、特に女性の視点から議員が妊娠・出産やそれらを起因とした疾病を患い、議会を長期間欠席した場合、報酬減額の対象から除外し、安心して妊娠・出産に臨めるようにするための改正など全国的にも先進事例だと考える。(遠藤)

- 今回取手市議会に伺い、あらためて強く感じたことは、議員と事務局が一体となって議会改革を行うと、その信頼関係から、様々な改革ができるのだなあということです。

特に決算と予算の審査の進め方については、会派から出された「課題情報共有シート」などを使って、決算審査結果を次年度予算編成に反映していくやり方は、素晴らしい取り組みだと思いました。現在安来市では、決算審査の結果が次年度予算になかなか反映されていないのが実情だと思います。一つの方法として検討してみる価値はあると思います。(作野)

## 2. 農研機構

- 対応者： 農研機構 連携広報部 広報課 広報チーム 栗山 朋子様  
// 農業技術革新工学研究センター  
高度作業支援システム研究領域長 八谷 満 様  
// 高度土地利用型作業ユニット長 林 様

- 場 所：農研機構 食と農の科学館と農業技術革新工学研究センター  
(茨城県つくば市)

### ● 概 要：農研機構概要説明および食と農の科学館見学、「ICT 分野での研究等の講義」と実機の紹介

まず「食と農の科学館」に伺い、農研機構の概要説明を受け、館内を見学しました。概要説明では、日本の農業と食に関連した新しい研究成果や技術について説明を受けました。その後館内を見学しました。まずは農業技術発達資料館で、日本の農業の歴史を実際に使われた農具類を見ながら日本農業の歩みについて説明を受けました。次に研究成果を紹介するエリアで、映像やパネルを通じ、食料の安定供給に寄与する研究開発や、日本の高い技術を生かした高品質、高付加価値を持った農産物や食品の研究等について説明を受けました。



その後、場所を農業技術革新工学研究センターに移し、「ICT 分野での研究等の講

義」を受け、意見交換をしたのち、外の圃場で GPS 搭載の無人トラクター実演機による作業デモンストレーションを見させていただきました。

#### 〈考察〉

- 我が国農業は、農業従事者の人手不足と高齢化対策に、生産性の向上と生産性コストの削減等、解決すべき課題が山積されています。営農現場が抱える様々な課題を解決すべく、人工衛星などで位置情報を把握して、耕運から代掻き、田植



え、収穫等農業作業を行う無人ロボットの開発現場を見させていただきました。

人が生きる限りは、農業は不可欠な産業であり、また大きなビジネスチャンスも控えています。さらに「研究予算や人的リソースなどの研究資源の最適配分」「組織の枠や国境を越えた連携活動の推進」「知的財産権と国際標準化の戦略的活用」「広報活動の推進」「人材の多様化と最適配分」等、農研機構に期待します。(金山)

- 農研機構での ICT 分野での研究等講義を受けた後、現場で実演機の紹介と実演状況を見学させていただきました。なぜ今スマート化なのか？現在農業者数は 175 万人だが将来三分の一になる 65 万人になると予想されている中で、労働生産性を 2~3 倍に上げなければならない必要性に迫られているのに他ならない。安来市においても大型圃場整備が進んでいるが、将来を見れば一考しなければならない問題であると考える。(遠藤)
- 農業技術革新工学研究センターで「ICT 分野での研究等の講義」を受け、そして実演機によるデモンストレーションを見て、近い将来、GPS 搭載の無人トラクターや田植え機、ドローンなどによって、飛躍的に労働生産性を上げることになることを確信しました。西日本一とも言われる大型圃場整備が進められている安来市農業では、ICT 技術を活用した農業にはもってこいの環境だと思います。是非とも行政・JA・農業者が連携し、スマート農業がいち早く実践されることを期待します。(作野)

### 3. 栃木県栃木市

- |       |       |              |        |
|-------|-------|--------------|--------|
| ●対応者： | 栃木市議会 | 議長           | 大阿久岩人様 |
|       | ”     | 議会事務局議事課長    | 金井 武彦様 |
|       | 栃木市   | 都市整備部住宅課長    | 大野 和久様 |
|       | ”     | ” 住宅課定住促進係主事 | 荻原 豊文様 |

●場 所： 栃木市役所

●概 要：「空き家対策事業について」

まず栃木市の概要に説明を受けたのち、移住定住支援政策の担当者から、安来市の空き家対策について、ホームページ等から見える問題点などについて、論評をいただきました。その後、移住定住支援について様々な支援施策を説明いただきました。補助金としては「まちなか定住促進住宅新設等補助制度」を含め現在6つの補助事業を実施しておられ、成果を上げておられます。また補助金以外にも今回詳しく説明いただいた空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」など4つの事業を展開しておられます。その他にも昨年9月より国土交通省に採択された自治会と連携した空き家の早期発見・活用事業である「先駆的空き家対策モデル事業」を実施されていることの説明を受け、意見交換をしました。

#### 〈考察〉

- 栃木市都市整備部  
大野住宅課長、荻原  
主事より説明を受  
ける。

移住者向け専門誌  
「田舎暮らしの本」  
のランキング、「子  
育て世代が住みた  
い田舎」と「若者世  
代が住みたい田舎」  
両部門で2年連続1  
位は何処かで、聞い



たような気もしていましたが、7月20日の視察まで私の認識不足でした。

「空き家・空き地の売りたい方、貸したい方」「空き家・空き地を買いたい方、借りたい方」利活用ネットワークが確立していると感じた。

空き家・空き地に関する情報を市のホームページで提供し、空き家・空き地の「売りたい、貸したい」という方と「買いたい、借りたい」という方の仲介を行う「あったか住まいるバンク制度」は、安来市でも参考にすべきと感じた。(金山)

- 冒頭、説明担当者から安来市の空き家対策について、今のホームページでは成果は得られないと、厳しい指摘の中で研修をさせていただいた。

「あったか住まいるバンク制度」なるものを創設し、栃木市と宅建協会と協定を結び、情報提供から現地調査・契約交渉申し込み・登録まで一連の流れの中でなるよう考えられている。成果を上げるなら、安来市も見習うといいと考える。(遠藤)

- 平成25年から始められた空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」も最初のうちは成果は上がらなかったが、平成27年度から始めた「空き家の解体補助」により、市民の関心が高まり、良い物件を空き家バンクに誘導することができるようになり、その結果空き家バンクの物件が売れるようになると、不動産業者も積極的に良い流れができたとのこと。また「先駆的空き家対策モデル事業」を実施されたことで、自治会と連携し、いち早く空き家の早期発見ができるようになったことも、実績が大きく上がった要因の一つだと思いました。とにかく様々な移住定住支援がうまくリンクされていることによって、移住者向け専門誌「田舎暮らしの本」

で空き家バンク成約者数が日本一になられた要因だと思いました。

安来市の空き家バンクは、登録件数も少なく、価格表示などの肝心な情報もなく、今の状態では成果は上がらないと思います。移住定住施策を見直す必要があることを痛感しました。(作野)

以上